10.8 VS アメリカ

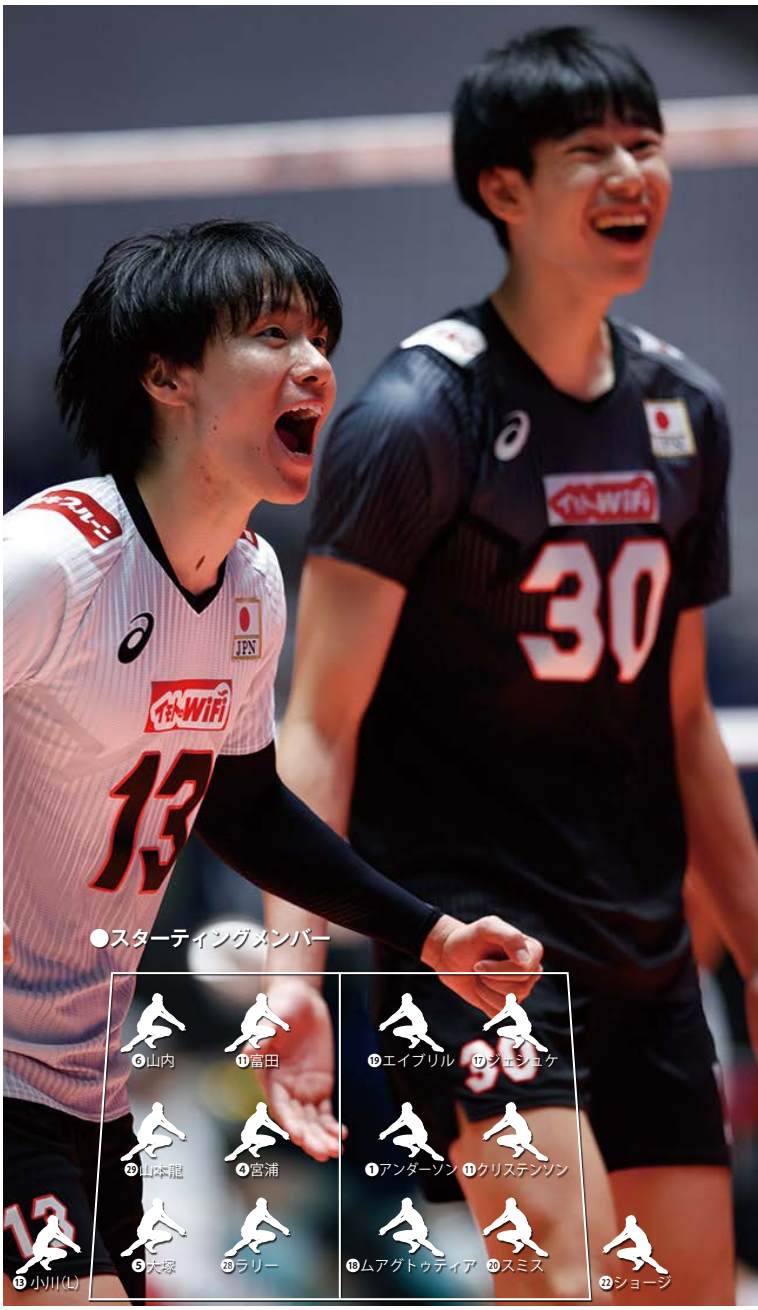
次世代メンバーが大舞台で対決。観客の変わらぬ声援がやがて彼らの力に

日本 2 ｜ 19－25 / 25－22 / 25－19 / 23－25 / 12－15 ｜ 3 アメリカ

五輪切符を獲得した後の試合とはいえ、世界ランキング２位・アメリカとの対戦は、開幕前からバレーファンが楽しみにしていたものだ。前日まで戦い抜いたスタメンではなく、若い選手たちが中心となる試合になったが、今、日本がやるべきバレーを全員が共有していることを存分に見せてくれた。

第１セット、コートに入る宮浦ら先発選手たちには、明らかに緊張の色が見えた。しかし、試合開始直後、ラリーが 201cm のミドルブロッカーエイブリルのクイックをブロックすると、一気に期待は高まる。特に、１セット取られた後の第２セットからは、龍神 NIPPON の強くて面白いバレーが随所に見られるようになった。3-4 からのラリーが続いた場面。ブロックフォローに山本龍が入り、小川がコート真ん中あたりからトスアップ。打ちやすそうなボールが宮浦に上がり、強打してブロックアウトをとった。「そう、これこれ」という気分を会場中で共有。中でも小川が常によい位置取りでボールを上げ続け、攻撃の起点を作っていた。点差は詰まり、中盤には山本龍と石川、宮浦と関田の２枚替えでギアを上げていくとともに、若手のいいプレーを引き出した。このセットから出たエンシングのサーブを大塚がつないで石川が決めたり、関田のディグから小川が石川にトスアップして３枚ブロックを打ち抜いたり、まさに日本の全員バレーが展開された。最後は大塚のライト攻撃、サービスエースと２連続得点してセットを奪取した。

第３セットになると山本龍のトスとスパイカーたちが合うようになり、アメリカに一歩も引かない攻防に。富田のサーブがアメリカの守備を崩し、ワンタッチからの切り返しで大塚が決めるなど、安心の日本バレー。宮浦はネーションズリーグを思い出させる活躍で、23 点目を取ったサーブには歓声が起こった。そして髙橋藍登場。24 点目は、藍のレシーブ、関田のブロックフォローから、藍が富田にフェイクトス！巧くコートに落とすと、今日一の盛り上がりに。富田が藍におぶさって喜ぶ姿は、これからも何度も見たいものだった。最後は、アメリカの代名詞、パイプ攻撃を石川、山内、大塚の３枚でドシャット。もしかして勝つ？という期待がふくらんだ。しかし、そこはアメリカ。何度も勝ちのチャンスは来るものの、第４、５セットを取り切れなかった。大収穫のある敗戦だった。リリーフサーバーに起用され、厳しい経験をしてきた甲斐が、ワールドカップ初めてのスパイク得点をあげた試合としても記憶しておきたい。



日本	2 — 3	アメリカ
104	得点	106
63	アタック決定本数	64
5	ブロックポイント	13
6	サービスエース	2
30	相手のミスによる得点	27

●スタメン6人の平均身長　日本　193.0cm　アメリカ：200.8cm